

じじがつくったおこめ
里公小がっこうねんくらいいしみる
じじは、さどであさからはんまで、おいし
いおこめをつくるためにがんばっています。
かれないように、だいにそだててくれます。
だからわたしは、おこめにもがんばるといい
たいです。おうちにおこめがなくなったら、
じじのおいしいおこめを、おとってくれます。
つくっているのはじじなので、おみせにら
ているおこめよりおいしく感じます。よく
かむと、あまくてもちもちしているの、わ
たしはだいすぎです。ごはんをよくみると、
つるつるしていたり、きざみをしていたりす
るので、だいやさんとまちがえそちです。
いつもおこめをつくらせているじじに、ありが
たうのさもちをどけたいです。
おもちになるためのも、どのびるおこめが
あたり、おこめにはたくさん、のし、る、い、か
あると、おしえてもらいました。わたしは、
すきなだけごはんをたべられるけど、ちがう

くにでは一にちーかいしかたべうれないひと
がいることをかえほんでよみました。だから
ひとつぶもおこめものこしちやいけません。
だいじにつかわなさいいけなとおもいます。
ちやんと「ただきます。」「ごちそうさまで
した。」をいおうとおもいます。

じじがつくるおこめは、せかいーだとおも
います。だからわたしも、じじみたいなおい
しいおこめをつくらしてみたいです。そして、
じじがはたらけなくなったら、わたしがじじ
のやつているたんぼをこうたいして、かあり
になつてやつてあげたいほどかかんしゃして
います。